

慈愛に満ちた歓迎

スワミ・シッダーナンダ

1972 年、私はシカゴ近郊にある大学の実験的なプログラムで、インド哲学と神秘主義についてのクラスを教えていました。私は、教えている古代のヨーガの教典に記されている数々の意識の境地を直接体験することへの関心を高め、何かしらの大きな進歩を遂げるためには、グルを見つけなければならないと決心しました。12 人の学生を連れてインドへの2カ月間の実地見学旅行を手配することができました。この旅行で、学生たちは神秘主義、瞑想、インド文化についての学びを深めることができ——そして私は、本物の師を見つけられるかもしれないと思いました。

旅立つ直前に、1970 年にカリフォルニアでバーバと出会った友人が、「スワミ・ムクターナンダに絶対に会うように！」と、私に助言しました。私は彼の助言に従い、彼のアーシュラムを私たちの最初の目的地とする予定を立てました。私は知らなかったのですが、この友人はバーバに手紙を書き、アメリカ人の学生たちのグループがインド旅行でバーバに会いに行く計画をしていることを伝えていました。

1972 年3月 25 日、私たちは公共バスで空港から、当時、シュリー・グルデーヴ・アーシュラムと呼ばれていた所(現在のグルデーヴ・シッダ・ピートゥ)に向かいました。バスは仕事に向かう人たちでいっぱいでした。市場で売るための品物を籠いっぱいに入れて運んでいる人たちや、けたたましい鳴き声を上げる大きなヤギを連れている人たちもいました。

学生たちと私は、だらしくみすぼらしい一団でした。私たち世代の若者が着る服——破れたブルージーンズ、戦闘服、絞り染めの T シャツ——を着て、バックパックにすべての荷物を詰め込んでいました。

アーシュラムの中央にあるグル・チョークと呼ばれる中庭に入ると、私は驚く光景を目にしました。清潔で簡素な木綿の服を着た数十人の人々が、静かに中庭にたたずんでいました。そのうちの一人がやって来て、私たちを出迎えました。「バーバに会いたいですか」。私たちは喜び勇んで「はい！」と答えました。

バーバは一段高い所に座っていました。そして私たちが近づくと、彼の注意が私たちの方に向くのが分かりました。私たちが紹介されている間、バーバは私たちを上から下まで見ていました。さらに、彼はもっとよく見ようとサングラスも外しました。それから大きな笑顔を浮かべて、彼は言いました。「ああ、あなたたちはみんな良い家庭の出身だね」

バーバの言葉に、私は嬉しくなりました。バーバは私たちの家庭環境以上のことに言及していると感じたからです。なぜか、バーバは私たちの心の中を見通して、みすばらしい格好をしていても私たちは良い意図を持った良い人間だと言っているような気がしたのです。

バーバは、素晴らしい愛で私たちの小さなグループをアーシュラムに歓迎しました。彼は、上の庭にあるバンガローを私たちの滞在のために提供しました。そして、通常使われる辛いスパイスを使わない特別の料理も用意しました。

到着の翌朝、私たちは掲示板にあるアーシュラムの日課を読みました。一日は午前3時 30 分に始まり、夜9時に終わり、そしてその間さまざまな必修の活動がありました。チャンティングの時間、瞑想、無私の奉仕の時間などです。バーバのアーシュラムは厳しい規律でインド中に知れ渡っていました。探究者たちが自分自身の内なる自己を体験できるようにと、バーバ自身がこのような日課を立てたのでした。

学生たちは仰天しました。彼らはこんなことはしたくないと言い、立ち去ろうと荷物をまとめ始めました。私は板挟みになったと感じました。バーバともっと時間を過ごしたい、しかしこのグループの責任者として、もし彼らが出発するのなら、私も彼らと共に行かなければならないと分かっていたいました。

ほとんど間髪を入れずに、私たちはバーバからメッセージを受け取りました。「3日間、私の招待客として滞在しなさい。あなたたちが参加しなければならないプログラムは、昼食のみです」

学生たちは喜びました。このようなスケジュールなら彼らも大丈夫です。私は個人的にとっても驚き、そしてここにとどまってバーバと今しばらく時間を過ごせることへの感謝の気持ちで満たされました。そうして、私たちは荷を再び解き、落ち着くことになったのです。

バーバはアーシュラムの住人の一人に、私たちにアーシュラム内を案内するように頼みました。その後、別の人には私たちをガネーシュプリーの町に案内し、バガヴァーン・ニッティヤーナンダの寺院に連れていくように頼みました。そして、学生たちと私は毎日欠かさずアンナプールナー・ダイニングホールの昼食に行きました。そこでは、バーバは私たちのために特別な食事を用意していました。私たちはアーシュラムで3日間、満足して過ごしました。

インドへの旅が終わった後、学生の中にはシッダ・ヨーガの道の教えを実践し始める者もありました。私はその後、僧侶になる誓いを立ててシッダ・ヨーガのスワミとなり、グルに仕えるために人生をささげるようになりました。

バーバとの最初の出会いを考えるたびに、私たちそれぞれが、どんな状況にあっても、彼の恩恵を受け取ることができるようにしてくれたバーバの限りない慈愛を思い出します。それは非の打ちどころがない歓迎でした。

